マリンストアニュース

YAMAHA MARINE STORE NEWS

No.49 '86-1

ゲーム&スポーツ/バス・フィッシング

釣師(バス・プロ)たちが湖にやってくる。

お店の窓から潮騒がひびく

窓から見えるのは青い海と白い砂、そして、風にそよぐ椰子の葉です。店内にはセイリング、ダイビング、サーフィンの用品が美しくナウく陳列されています。
去年の秋オープンしたデパート「横浜そごう」の地下1階、ヤングファッションの街の一角にマリン用品ショップが入りました。お店の名前は〝マリンスクエア・オフタイム〟です。
カウンター後方の壁に出窓をつくり、窓枠まで付けて、ハワイの海岸の写真をはめこんだのが、〝美しい誤解〟をあたえる演出なのですが、これは駅などでよく見かける〝アンドン〟と呼ばれる装置で、大きく引き伸ばしたスライド写真の後に螢光灯のライトボックスを入れて写真を透過光で見せています。
写真の明るい部分をそのまま光として感じさせるから、プリント写真よりもグンと鮮やかで、強い臨場感をあたえます。お店の前でお客さんをふと立ち止らせる心にくい装置です。
このハワイの海はライトボックスに37W螢光灯20本を使っている大がかりな装置ですが、ここまで大きなものでなくても、なにか店内に〝潮ッ気〟をただよわせる工夫が、あなたのお店でも考えられそうです。

マリンレジャー最前線 1

ゲーム&スポーツ バス・フィッシング

釣師(バス・プロ)たちが湖にやって来る

マリンルックは街に定着し、テレビコマーシャルやポスターには、イメージアップの道具としてヨットやボートが使われ、〝マリンレジャー〟はさまざまな形で暮しの中に浸透してきています。

余暇時代といわれる今日、マリンレジャーはどのように伸長してゆくのでしょうか。『マリンレジャー最前線』は、動きつづけるマリンレジャーの最新情報です。

■年収2億7千万円の釣り師(バス・プロ)たち■

二億七千万円。バスフィッシング王国アメリカでもトップクラスのバスプロといわれるローランド・マーチンの年収である。

バスプロ（バスフィッシングを職業とする人）はプロゴルファーと置き換えてみるとその立場が理解しやすい。

アメリカのバスプロは約百名。トップクラスはその半分、ローランド・マーチン級はほんのひと握りの存在だ。こうしたバスプロたちの活躍の場、稼ぎ場がバスプロトーナメントだ。

湖や人造湖を舞台におこなわれるトーナメントは、一九六七年アーカンサス州ビーバーレイクで開催された〈第一回オールアメリカンバストーナメント〉に始まる。現在では年間百回以上も開催されていて、一千万、二千万円もの大金が優勝賞金として賭けられている大会も珍しくなくなっている。

バスプロたちが使用するボートは12～14フィートが主流。どれも鮮やかな色彩で、何でも楽しもうとするアメリカ人気質の明るさを感じさせる。

米国製バスボートは、止まっているときは吃水が下がって釣りがしやすく、走り出すと船体が浮き、船尾のわずかな部分だけが水に接している状態でスピードが出るのが特徴だ。

もちろん、ロッド、リール、ルアー用の格納スペース、イケスなどもフロア下を巧みに使いうまくできている。イスもできるだけ座りごこちのいいものを選び、床にはカーペットを敷きつめる。こうした道具の数かずまでも自分好みのものにして楽しむ釣り、いかにもアメリカ人好みの釣り、それがバスフィッシングだ。

それらバスボートの多くは50馬力以上の船外機を付けて、自分の狙ったポイントを目指し猛スピードで移動する。ポイントの確保は釣果に大きく影響するし、日本に比べてはるかに広大な水面が会場なのだから、バスボートに高馬力船外機はアメリカでは必需品だ。

ポイントに着いたら、バウに付けた電動モーターに切り換えて細かく移動する。これは自動車のアクセルのように足でコントロールするペダル式。ポイントを攻める手を休ませることなく岩や浅瀬や樹木などの障害物を避けることが、この方式の利点なのだ。

現在アメリカのバスプロたちは、大リーグやアメリカンフットボールの花形プレイヤーと肩を並べるほどの人気をもっている。ローランド・マーチンをはじめ幾人かのトッププロたちは、自ら企画・出演するテレビ番組を製作し、全米ネットワークの規模でお茶の間に登場する。日本に置き換えればテレビ野球教室、人気プロゴルファーのレッスン番組のようなものだ。

昨年度アメリカ国内で二十万隻のボートが

BASSING

全日本バスプロトーナメント協会主催の最終戦で河口湖に集まった〝日本のバスプロ〟143隻。

売られ、なんとその八割がバスボート、つまりバスフィッシング専用のボートだという。

湖（人造湖）が多いこと、バスの繁殖力が強いことなどの地域的特性と、バスフィッシングのおもしろさ（ゲーム性、スポーツ性、ボートを含めた道具類の楽しみ）がアメリカ人の嗜好に合っているといえる。アメリカ、とくに内陸の人々にとって〝釣りといえばバスフィッシング〟というほどの浸透ぶりで、バスフィッシングクラブが一番少ないといわれるニュージャージー州でも五〇～六〇のクラブがあるほどだ。

■バス・フィッシングは魚との〝格闘技〟なのだ■

淡水に放流しさえすれば増える。そういえるほどにバスの繁殖力は強く、しかもその維持・管理にも手間がかからない。バスの強い生命力が北米大陸に点在する湖に、多くの釣り人を引きつける原動力だともいえる。

バスフィッシングを既存の釣りと明確に区別し、おもしろくしているのがルアー（擬似餌）だ。バスは、エサとしてはもちろん、好奇心、攻撃の対象としてルアーを追う習性をもっている。釣り人はこうしたバスの特性に十分強くならないと、コンスタントな釣果が望めない。モエビなどでならおもしろいように釣れてしまうバスを、ルアーでいかに釣りあげるかというところが、バスフィッシングのおもしろさだろう。

季節はもちろん、釣りの当日に至るまでの自然条件の推移（例えば、三日前からの天候・気圧・気温・水温・風向・風速・水量・水流etc.）がポイント選定に影響することは、魚の種類によらずどの釣りにも当てはまることだが、スズキに似た北米産のこの魚は、特にそれが顕著なのだ。ポイントのズレはそのまま釣果に現われる。

データに基づいてポイントを決定する。ポイントに最適な道具（ルアー）を選び、それを使いこなして初めて釣果が得られるわけだ。自然環境の条件とバスの習性に強くなること——フィールドサイエンスが重要な意味をもつバスフィッシングは、ハンティングを例にしてよく語られる。

場所の決定と道具の選定——このようなパターンを組み立てるためのデータ収集と、それをどのように読むかという能力（センス）がものをいう。「釣れたのではなく釣ったというべき」バスと釣り人のかけひき、ゲーム性がここにある。

＊　＊　＊

現在日本で開催されているバスフィッシング大会のほとんどは、体長25㎝以上の活魚三尾の総重量によって競われている。死魚を持ちこんだ場合は、400グラムのマイナスペナルティが課せられ、検量時にイケスやクーラーに三尾以上のバスを持っていてはいけない。もちろんライブベイト（生きエサ）はダメ、ボートには一人だけしか乗船してはいけない等々。

こうしたルールは、バスフィッシングがスポーツ・ゲームフィッシングであると明確に位置づけするとともに、自然保護を重視した釣りであることを強く印象づけている。

検量されたあとのバスは湖に戻される。大会でなくとも、キャッチ・アンド・リリースという習慣はバスフィッシングの世界では常識といえるほど徹底されている。〝釣ったサカナは食べないとサカナに失礼〟といったこれまでの釣りとは全く違う性格をもつ「漁をするのではなく、サカナとゲームを楽しむ釣り」だからなのだ。

生きエサを使わないルアー釣りだから手を汚すこともなく清潔なこと、パターンを読めば岸からでも型のよい大物を狙える——バスボートでの本格的バスフィッシングの擬似体験が味わえる——こと、他の魚にはないバス特有の力強いファイトが楽しめること、などが小学生の間にも人気を呼んでいる理由だろう。

ブラックバスの学名は「Micropterus Salmodides」サンフィッシュ科に属するアメリカ産の温水性魚食性魚で、日本ではオヤニラミ、スズキなどが近い種類だ。

このブラックバスが日本に移入されたのは大正十四年（一九二五）のこと。赤星鉄馬氏によって、帝大（東大）・淡水実験所のあった神奈川県・芦ノ湖に放流された。その後、日本各地で増え続け、放流しさえすれば繁殖するブラックバスはこの五、六年の間に、川や湖ではいないところのほうが少ないといわれるほどに日本でもポピュラーな存在になった。

京都から来た人もいた11月23日の受付け風景。申し込みを済ませて出艇の準備にかかる。大会役員はスタート前に全艇のイケスやクーラーの中を調べ、ライフジャケットの着用をチェックする。

■ボードセイリングや水上スキーに通じるスリル■

わが国で本格的なバスフィッシングトーナメントが開催されたのは昭和六十年四月のことだ。トーナメント元年にあたる同年には、予選十回、チャンピオン大会三回が開催されて、毎回平均二百人、延べ三千人近くの参加者がすでにあったという。

山梨県・河口湖を会場にしておこなわれたこのバストーナメントを企画・運営しているのが全日本バスプロトーナメント協会（JBTA）だ。同協会は河口湖のロイヤルホテルに本部を置き、大会は同ホテル前の湖面をスタート水域に定めて毎回開催されてきた。

「アメリカであれだけ盛んなのだから、日本でもプロが成立しないはずがない」同協会創

タックルの数々。さまざまな型と色、その中からたったひとつを選んでバスと勝負する。

設メンバーの一人で、大会委員長を務める山下氏の言葉どおり、協会の主な目的はバスプロの育成とそのゲームの普及にある。

ひとつその現場を見てみよう。〈JBTAファイナルチャンピオン大会〉、'85年の最終トーナメントが十一月二十三、二十四日の二日間、河口湖でおこなわれた。

スタート水域に集まったのは一四三隻。手こぎ貸しボート、それに自前の船外機を付けたもの、さらに電動モーターや魚探を装備したもの。マイボート派は十二フィートに六～八馬力船外機という組み合せが主流で、ルーフキャリアということを考慮した軽いボートが多い。さらに本格派は、既存のボートにカーペットを敷きつめ、FRPやプラスチック製の回転するイスを付けている。

＊　＊　＊

なかでも、本場アメリカ製のバスボートの一隻と、つりっこ太郎100をバスフィッシング仕様に自分で改造したものが目立っていた。

貸しボートよりルーフキャリアのマイボート、ルーフキャリアクラスのボートよりもトレーラーボートと、釣り道具のひとつとして船を充実させていきたいというのがバスフィッシング界の流れだ。パターンを自分で組み立てて〝待つのではなく攻める〟あるいは〝釣りの要素の多くの部分が自分の手のうちにある〟釣りだからこそ性能のよいバスボートが必要なのだろう。

スタートして自分のポイントに着くまでのボートスピード、ポイントでの魚探、電動モーターやルアーの使いこなし、そしてヒットが無かった場合のパターンの組み直し、そしてまた移動……こうした展開をもつバスフィッシングだから、よい道具をそろえればそれなりの結果が釣果にあらわれる。それだけに金をかけられる遊びだとも言い換えられる。

＊　＊　＊

バスプロトーナメントの参加資格は、JBTAが定めるプロテストに合格した者に限られている。最終大会の優勝賞金は六万円、総額でも五〇万円だ。しかし'86年には一五〇万円、二〇〇万円という大会が予定されている。

こうしたトーナメントブームは、バスフィッシングそのもののおもしろさはもちろんだが、開催地の強力なバックアップなしでは成り立つはずがない。

バスフィッシングは地元にお金を落す遊びだという〝バスの効用〟がその背景にある。観光資源としてはもちろん、貸ボート業者、ガソリンスタンド、ランディング（トレーラーボートを水面に降ろす施設）料、駐車場、食事……などを見込むと、バスフィッシング人口の増加がそのまま地元の収入増に結びつくという考え方だ。

本場アメリカのケースが、人口も環境も違い歴史も浅い日本にそのまま当てはまるわけではないにしても、開催地にはかなりな影響があることは想像できる。

＊　＊　＊

あるバスフィッシングの月刊専門誌は、関東エリアだけで二万部売れているという。マイボートはもちろん、貸しボートにも手が届かない小学生層なども含めると、バス人口は現在八～十万人だと推定される。

こうしてブラックバスが日本各地の湖などに繁殖してゆき、バスフィッシングの人気が高まってゆく一方で、〝バスは害魚だ〟という声も同時に広まってきた。

近年、ワカサギの漁獲量が減っている原因にブラックバスの増殖があげられることがある。これは、バスが肉食性の魚だから言われることではあるが、しかし、ブラックバスが淡水魚を絶滅させてしまったという報告は無いし、ワカサギとは生息する場所が異なるという説もある。いづれにしても調査と対策が待たれるところだ。

バスが害魚であるというこれまでの定説を科学的調査のもとに、そうでないことを証明すること、ヘラなど在来の静的な釣りと行動的なバスフィッシングとをどのように調整してゆくか、そしてトレーラーボートの交通法規の緩和への働きかけ、その設備の充実と土地の確保と整備、ボートを含めた関連機器の開発などが、日本におけるバスフィッシング界の当面の課題だろう。

こうした課題を抱えていても、ボードセイリングやスキーと同じような感覚で、マイボートを車で運び、ファッショナブルで活動的なスポーツゲームフィッシングとして　三十歳前後を中心に、その層は着実に拡大してゆくことは確かだろう。

つりっこ太郎100。バスフィッシング用にイスを備えたり、いろいろ工夫している。

村田さんも愛艇で出場。ヤマハU 15-AFデラックスにパチンコ屋のイスを付けた手づくりバスボート。

〈取材協力〉

全日本バスプロトーナメント協会

徳永兼三氏（30歳）

東海大学海洋学部卒。卒業論文のテーマは超音波発信器による「サケの母川回帰」。同大学在学中は釣り部の部長を務める。昭和五十六年に〈バスメイト〉（釣り具店）オープン。昨年は年間百十二日間釣りに出ていた。「月刊フィッシング」などに定期的に寄稿している。

村田　肇氏（27歳）

五歳のときから父親に連れられて多摩川で釣りを親しむ。十一歳のときに現在の潮来に引っ越して、父親が営む釣り具店を手伝いながら、ますます釣りにのめりこんだ。ルアーフィッシングは高校生のときからで、すでに十三年、ボートは現在七隻目を数える。来年の目標はスポンサー探しとアメリカへの修行。「月刊フィッシング」などに定期的に寄稿している。

緑の旗が目印、沖で声をかけ合う 頼りになる仲間

●松田モータース／松田武さん　長崎県佐世保市干尽町

緑の地にボートのマークと〝SS〟の文字を白く抜いた三角旗、これが釣クラブのシンボルです。沖で「やあ、今日は釣れるかい」と声をかける仲間が欲しい。エンジントラブルのときも友達がいれば助け合うことができる。海難予防のための釣り仲間づくりを――という発想が松田モータースのお客さんたちのあいだに生れて、五十八年の春、釣クラブ「佐世保松友会」が誕生しました。発足のときの会員は四十人、現在は三十九人です。メンバーは、海へ出るときはかならず緑の旗をボートにかかげること、という申し合わせを実行しています。

60年10月20日秋の釣り大会

佐世保市の早岐町、干尽町、相浦町、船越町、鹿子前町と、会員の住所は複雑な海岸線の八方にちらばっているのが特徴ですが、おたがいに顔なじみになることが先決だと、みなさんは会の組織づくりと運営方法の整備に力を入れました。発足早々に「佐世保松友会会則」「佐世保松友会釣り大会規程」をつくり、会長、副会長、事務局長、事務局次長、理事の役員を選出しています。松田モータース内に事務局がおかれて、松田さんは事務局次長を引き受けました。つまり、連絡係、釣り場情報センター、その他もろもろの世話係というわけです。

洋上表彰式

洋上検量

組織づくりが円滑にはこばれたのは、メンバーのなかにこういうことはお手の物という管理職のベテランがいたおかげですが、なにもかも松田モータースの世話になるのではなく、「松友会」はそれ自体の主体性を持って活動し、そうすることでメンバーの参加意識を高めようという考えがあったからです。

「松友会」の活動状況を紹介しましょう。

▼入会金五〇〇円、年会費二、〇〇〇円ですが、釣り大会のときは七〇〇円の参加費を集めます。

右から会長・田代盛勝さん、副会長・中島博茂さん、松田幸子さん（奥様）、松田武さん、事務局長・皆良田勇雄さん

松田モータース、松田武さん

▼年一回、春に総会を開き、総会のあとで佐世保海上保安部担当官による海難防止講話会とヤマハ佐世保店サービス担当の船外機メンテナンス指導をおこないます。

▼釣り大会を春と秋の二回開催します。春はキス釣り大会、秋は鯛狙いの瀬もの釣り大会です。漁場はどちらも九十九島。

▼会長と副会長は講習を受けて、五十九年四月、海上安全指導委員の辞令を受けました。パトロール艇の役目をはたすほかに会員に対して海技免許の切換え指導や釣り大会での安全指導をし、海上保安部や安全協会との連絡にいつも留意しています。

なんといっても、メンバーの楽しみは釣り大会、表彰式のあとの洋上懇親会です。会員の舟だまりがあちらこちらに散らばっているので、顔を合わせてゆっくりおしゃべりをし、付き合いを深められるのは、この釣り大会の一日です。最年少二十六歳から最高齢七十歳まで、職業も会社員、公務員、自営業とさまざまです。「海の上で、たがいの身分や肩書きにこだわりなく自由に語り合えるのは、実にいいねえ」と、副会長の中島博茂さん（59歳）は眼をほそめます。

釣り大会の〝洋上検量・表彰式〟は「松友会」独得のイベントですが、長南風（ながはえ）島の島かげに全艇集結して、親船を中心に四方から係留し合って会場を設営するやり方も、みんなで知恵を出して考えたのです。

さて、いま「松友会」の役員さんたちが頭をひねっているのは、釣り大会の内容をどうするかという問題です。親睦を中心に企画すべきか、競技に力点をおくのか、個人の好みや艇種のちがいを考えると慎重にならざるを得ない問題なのです。

もう一つ、会長の田代盛勝さん（58歳）からヤマハへの要望を伝えておきます。

「ヤマハボートフィッシングコンテストは、開催が秋の一定期間内に定められていますが、春のキス釣り大会も対象になるよう、現地開催スケジュールの自由度を少しひろげてもらえると有難い。今年の秋は、日曜日ごとに天気が悪くなり、日程調整に苦労したのです」

マリンクラブと二人三脚 いっしょに遊んで需要拡大

●㈲ヒラタ・マリン事業部／平田紀昭さん　埼玉県川口市峯

'85年のボートフィッシングコンテストでの記念撮影。全員がHIRATAマリンクラブのメンバーです。

平田紀昭さん（44歳）がマリンストアを始めたのは昭和五十四年のこと。それより三年前に中古車センターとして使用していた敷地の片隅に、趣味でやっていたボートを置いたことがそもそもの始まりです。

それからだんだんとボート仲間が集まりだし、昭和五十二年には中古車センターの事務所でボート免許教室を開くようにまでなりました。そうして昭和五十四年にマリンストアとしてスタートしたわけです。

マリンクラブの旗を囲んで。左からメンバーの吉田さん、千田さん、秋元さん、平田さん。「仕事の途中や帰り道に寄る人が多いです。1人1人がクラブ員だという自覚が強いんでしょうね」という平田さんの言う通り事務所はいつも賑やかです。

ボート仲間が集まってからご商売を始めたので〈HIRATAマリンクラブ〉は開店と同時に創られました。その創設者ともいえるのが、秋元一夫さん（50歳）です。秋元さんは昭和五十八年の春まで同マリンクラブの会長を務めてきました。

「秋元さんの人柄がそのままクラブのカラーなんです。楽しく、気分よく遊べる人が集まっています。いいムードですね」と平田さんは秋元さんを紹介してくれました。

マリンクラブのメンバーは現在、約九十名います。最年長は六十歳、最年少は十八歳。ヒラタ店さんのお客さんであることが唯一の入会条件ですが、海が好きなら誰でも入会できるのが実情です。

「海を楽しむためには、ボート一隻で動いていたのでは安全面でも不安だし楽しくない。みんなで楽しくやりましょうよ、で自然に集まりそのまま当時の雰囲気で続いています」と初代会長の秋元さん。

マリンクラブのメインイベントは毎年夏におこなう千葉の館山クルージングです。クラブ創立以来毎年実施されていて、いつも二十隻・八十名ほどで一泊二日のサマークルーズを楽しみます。「館山では毎年同じ民宿にお世話になっていましてね、そこが百名ほどでいっぱいになっちゃうんです。でも二十隻という数も安全という面からは適当なところでしょうね」そう言いながら平田さんは、〝'85夏〟と書かれたアルバムを持ってきてくれました。

まず目についたのはボートに付けられた赤白の旗です。「赤白、左右半々に分けられたフラッグは、国際信号旗でHを意味します。ヒラタのHです。出艇するときは必ずこれを付けていますから、ひと目でクラブの船だと分ります。クルージングや釣り大会のときは、互いの連帯感もできるし、安全にも役立ちますから」と平田さんが説明を加えてくれました。安全ということを第一に、クラブでは今各艇が無線を備えるように指導中です。現在は約七十隻中二五隻がすでに装備しています。クルージングなどのときには、無線を持っていない船は持っている船のうしろに並ぶようにボートの配置を決めるそうです。

●

平田さんの店がある通称、安行街道の後峯から車で十分ほど行くと、荒川の支流、芝川に着きます。川の流れと平行にボートが係留できるように桟橋が造られています。幅約二メートルのガッシリした桟橋は、マリンクラブのメンバーの手づくりです。

クルージングや釣り大会の企画と運営はもとより、安全対策や係留場所の問題まで、マリンクラブの運営は、全て定例会によって決められています。

定例会は毎月第二土曜日の午後六時半から、ヒラタ店さんの事務所でひらかれます。

「定例会はメンバー全員出席ですが、十五隻をひと組にして、そこから二人づつ役員を選出してもらい、役員が中心になってあれこれやっています」と秋元さん。クラブ員の足並みがいいのも、自分たちで決めて実行しているからだと話してくれました。

〈HIRATAマリンクラブ〉とともに成長してきたというヒラタ店さん。平田さんのモットーは、「海に出たい、酒が好き、刺身が好きという人が集まる、来れば楽しめるクラブづくりです。だから海以外の遊びはうちではやりません。海のレジャーだからこそリーダーシップをとれるんです。これからも、海の世界からはみだして何かやるつもりはありません」平田さんは鬚に手をやって歯切れよく答えてくれました。

ボートフィッシング、無線、水上スキー、そして料理、それぞれの分野のエキスパートがクラブ員にいることがマリンクラブの自慢です。

「定例会で企画を立てて、それをしたい人は一緒に行って教えてもらえばいい。そうやって、どんどん遊びを広げられるわけです。なかでも評判なのが料理ですね。メンバーの

HIRATAマリンクラブNEWSは月一回発行。「手書きで親しみやすいでしょう。こういう世界なら、入ろうかなっていう人が多いみたいですね」四〇〇字詰原稿用紙十五枚ほどを一人で書きあげるという平田さんの力作です。

おしどり夫婦がつくる「地域住民のおつきあい」

●大谷マリン／大谷幸弘さん　大阪府泉南郡阪南町

大阪府の南部、和歌山市に近い泉南郡阪南町で、二十五年前から自動車販売修理業「大谷モータース」を経営してきた大谷幸弘さん（45歳）は、四年前、それに加えて、一キロほど離れたところにマリンストア「大谷マリン」を開店させました。

大谷さんは奥さまのカヅ子さんとともに、十三、四年前からボート遊びをはじめ、八、九年前からはクルーザーヨットにも乗っています。

大谷さんご夫妻は、ボートに乗りはじめた頃にも、自分たちでボートを販売してみたいと思い、そのサービス工場まで建てました。しかし当時はボートで遊ぶ人はごくわずか。営業が成り立たないので商売に踏み切れず、サービス工場は自動車の鈑金、塗装工場に転用していました。

それから約十年、町の様子は大きく変わりました。同店の最寄駅、尾崎駅から大阪の難波駅までは急行なら約四〇分。店の周囲は大阪方面に勤める人々のベットタウンに変貌し、人口は急増したのです。また、ここより北の大阪方面のボートオーナーは和歌山方面によく遊びに出ますが、同店の近くにボートマリーナが得られれば、一層便利になることから、大阪在住のお客さんを得ることも有望視され、大谷さんご夫妻は「これならイケる」と「大谷マリン」を開店しました。

●

この四年半のあいだに、大谷さんご夫妻は新艇、中古艇合わせて約二〇〇隻のお客さんをつくり出しました。その多くは釣りをする人たち。主な艇種は15フィートから17フィートクラスのＦＩＳＨシリーズやＵシリーズです。

「商売はいやでやっとったら具合い悪い。わたしたちは好きでやっている。自分でボートに乗り、友だちと遊びに行くし、クルーザーヨットにも乗り、レースにも出てみる。

釣り大会のビデオを見せてくれた大谷さんご夫妻。お店は「第２阪和道路」（国道26号バイパス）と「阪和高速」阪南インターチェンジ」を結ぶ道のすぐ近くにあります。

コミュニティ・コミュニケーション（地域住民のおつき合い）という言葉があるでしょう。どんな商売でもいえると思うが、これが一番大事やと思いますね。これを省いたら、これからの商売はダメですね」と語る大谷さん。

大谷マリンさんのご商売の基本は〝心を通わせながら、海でともに遊ぶ仲間を増やすこと〟。そして、自分たちとお客さまたちとのコミュニケーションがそれを実現させると考えています。

ご夫妻はお客さまへの納艇日や進水式の日にはその船に乗ってお客さまと一緒に釣りを楽しんだり、教えてあげたり、艇種や日和りによっては淡路島までのクルージング・プランを立てて案内役をつとめます。

また、以前に購入していただいたお客さまに誘われて、一緒に釣りをしたり、クルージングしたりすることも度々です。何隻かのグループで淡路島に渡り、バーベキューをしたり。釣りに出かけてお客さんの奥さんや子供さんたちがそれに飽きたようなら、カヅ子さんは貝拾いが楽しめる場所や雰囲気のよいレストランなどへの案内役にもなります。

●

お客さまたちとこんなおつき合いをしている大谷マリンさんには、釣りクラブはありません。しかし、同店では年に一度、七月上旬の休日に盛大な釣り大会を主催します。

三回目となった今年の大会は、お客さま全員にＤＭで、また、とくに親しいお客さまには電話でも案内しました。そして、この日を待ちわびていたように三十隻のお客さんたちが参加しました。

「お客さんたちにお歳暮やお中元をするつもりでしているんです」とカヅ子さん。「みなさんたいへん楽しみにしているんですよ」。

大谷さんご夫妻は、自分たちの船を出していつものようにビデオを撮ります。

お客さんたちはそのビデオを見に、また来店してくれます。ダビングしたいとそれを借りに来る人もいます。「優勝者はラックアンカーを使っていたから、俺も使ってみよう」などと思わぬ注文を受けたり、「やはりこのぐらいのボートが欲しいなー」、「あの人はどこの人？」など、お客さま同志が知り合うキッカケにもなります。こうして大谷さんご夫妻とお客さまたちとのコミュニケーションはまた深まっていきます。

同店のお客さまからは「釣りクラブ」をとの話も出ていますが、大谷さんご夫妻は「私たちが主導するのではなく、あくまでも後援するといった方向で考えていきたいですね。お客さまが釣りに片寄るような店にしていきたくないということがありますから」と語っていました。

年に一度お客さんサービスとして主催するお店の釣り大会。今年も30隻のお客さんたちが参加。

〝満足感〟を味わうチャンス

広島県因島市重井町
佐々木ボート／佐々木勉さん

学生時代にマラソンとテニスをやった佐々木さんは、とにかく身体を動かすことの好きなスポーツマン。青春時代から今まで続けているスポーツは水上スキー、ダイビング、カイト、ディンギーと、はなはだ多彩です。瀬戸内の三原市で育った佐々木さんには、海はまるで「わが家の庭」のようなもの。マリンスポーツがからだの血管のすみずみにまで滲みとおっています。

「いろいろやったし、いまでも若い仲間に負けないように、どのスポーツも現役でやっています。でも、いちばん好きなのは夏の水上スキーと冬のダイビング。この二つは四十代、五十代になっても続けます。

とくに冬のダイビングがすばらしい。夏は水の透明度が一メートルくらいしかありませんが、冬は七～八メートルになります。海底へ潜ると、そのときは完全に孤独になります。考えて、行動する自分というモノがよく見えて、心が澄みとおります。

まあ、マリンスポーツの遊び方はさまざまですが、共通するのは、〝満足感〟を得るダイゴ味でしょうか」

牧場の馬に会いに行くのがいちばん楽しい

青森県むつ市柳町　**㈱橋本機械店／橋本春治社長・中村鶴美専務**

橋本社長（右）と中村専務

ゴルフ歴十年、J・G・Aハンデ17、は最高の時でいまは19、「ホールインワン保険には入っているのですが、残念ながら、まだ」と語る中村専務が、橋本社長の余暇ライフを教えてくださいました。

「社長はいつも新しいこと、先のことを考えている人。じっとしている人じゃありません。十五年ほど前、社長は、ゴルフ場をつくる計画でむつ市の西はずれの川内に百町歩の土地を取得したのですが、オイルショックもあってそれを断念、いまはそこに馬を放牧しています。温泉も掘ってみましたが二十六度の温泉が出て、社長はそれで熱帯産養殖魚のテラピアも育てています。植林もしてあるし、海は近いし、社長は来年あたりから、そこを〝森林浴〟と〝海水浴〟を楽しめるレジャーランドとすべく本格的に取り組むようですが、いまは、ちょっと時間があると『西へ行ってくる』、『四本足の彼女に会ってくる』と東奔西走の毎日です。仕事の時間というか、余暇の時間というか、私には両方に見えるのですが。昔、こちらでは農家が農耕馬として馬を飼い、二歳馬を軍馬として出しました。社長もそうした家庭環境で育ったのですが、『馬はかわいい』とよくいい、馬と会っている時がいちばん楽しいのでしょう」

「県展奨励賞」を二年連続受賞

和歌山市和歌浦東　**マリンショップ・西幸／西本百々子さん**

「六年ほど前、同業者のグループのお友だちに誘われて、いっしょに水墨画の勉強を始めました。子どものときから絵は好きでしたし以前に県の成人学級で油絵を一年ほど習ったこともあります。

茨木一[ママ]という先生の「萌春会」という会で、ふだんは週に一日。家に迷惑をかけたくないので、店のこと、主人の食事などすべて済ませてから出かけますので、夜の八時から十二時、遅くなる時は一時、二時ということもあります。

年にいちど、県展の出品作品を制作する時はたいへん。一ヵ月半ほどの間ですが、夜は毎晩になりますし、昼間もお友達の家にあるアトリエに行きます。なかなか思うようにいかず、楽しみが苦しみに変って、もう、こんなことヤメたと思うのですが、お産といっしょで、次の年になると忘れてしまい、もういっぺん…ということになってしまうのです」

60年度和歌山県展・絵画部門・奨励賞受賞作品、『羽音秋声』を親戚の人々といっしょに。右から二人目が西本さん。

ご商売のヒマを見付けて、ママさんソフトボール

岡山県備前市穂浪　**マリンショップ角野／角野益子さん**

ご主人の角野維昭（かどの・つぐあき）さんは、もと競輪選手。大転身を図って、五十九年八月、前が海の国道250号線沿いに「マリンショップ角野」を開店してから一年経ちました。益子さんも、ご主人といっしょに朝から夕まで店へ出て働きます。

「この一年は、毎日わからないことつづきでお客さんに教わりながら夢中で働きましたから、趣味どころではありませんでした。店が休みの日に家の片付けをするのを楽しみにするくらい。ただ、店のこと、お客さんのことで主人と共通の話題ができたのは良かった。仕事のことでグチを言うのが、わたしの新しい趣味（笑）。

ここはママさんソフトボールの盛んなところでしてね、一時は備前市内に三十五チームもありました。私も、あるチームに入っています。試合の予定がきまると、ひと月前からたがいにヒマを見付けて練習をします。

店の前のポンツーンで、ご主人といっしょに

子どもが大きくなると自分の時間がふやせそうなものですが、さいきんは働く中年女性が多くなって、みなさんかえって忙しくなるようですね」

パリ6時間ボートレース'85

ヤマハ船外機70C3年連続 1、2、3位を独占

毎年10月の第1週に、フランスの首都パリを流れる美しいセーヌ河で、人気の高いパワーボート・レースが開催されます。

ヨーロッパでの3大パワーボート・レースの一つである、この催しはヨーロッパ中の水上スピード狂をひきつけます。そして、毎年参加者が一番多く、もっとも白熱したレース展開をくり展げるのは、SE部門のフォーミュラ、排気量750-850ccクラスです。

今年もまた、というのは3年連続してヤマハ70C船外機を搭載したパワー・ボートが、1位、2位、3位でフィニッシュしたのです。今年の優勝者はデンマークから参加したハウガルド・ヴェステルガルド艇を操縦して、昨年の優勝平均時間95.3km/時を上回る、驚異的な103.7km/時を記録しました。

この成績は、プロペラの流水抵抗を減少させるために、各ボートのロワー・ユニットにノーズ・コーンをとり付けたこと。ロワー・ユニットの冷却水取入口へ水がスムーズに流れ込むように、ボートの船底へ取水装置をとり付けること……などを含めた、幾つかの技術上の進歩の反映でした。この結果、船外機を装着する高さの正確な調節や、プロペラの改良がなされました。

そのレースはエッフェル塔に近いセーヌ河の周回コースで開催されるので、見物客は両岸の川沿い遊歩道にあふれ、橋も人垣でいっぱいになります。トロカデロ橋を渡るメトロの運転手も、橋の上で一時停車して、乗客といっしょにレースの見物を楽しむほどなのです。

これは便利 フィッシング・データノート

ボーティングのデータとして航海日誌が役立つように、釣日記も、よりデータ重視の時代が来ている。㈱丸勝から発売された〝フィッシング・データノート〟は、日付・水域・天候・竿・餌・糸と仕掛け……など、シャレタ英文項目が一目で判るイラスト付き、備忘録で書き足りないときには、裏面の余白ページも使えます。

本革風のデラックスな表紙。大きなポケットにはすっぽり入る体裁。用紙の交換も自由なルーズリーフ式なのも便利だ。

定価 1,000円

▶お問い合わせは、㈱丸勝 〒181 東京都武蔵野市吉祥寺本町4-9-16 ☎0422(21)6777

海のひとこと

厳しい冬の海 安全運航に気をつけよう

昭和60年版の「海上保安白書」によると、昨年にわが国の周辺海域で、救助を必要とする海難に遭った船の数は1,920隻、これにともなう遭難者は10,052人であって、そのうちの死亡・行方不明は252人であった、という。

船種別には、漁船876隻、プレジャーボート426隻の順で、貨物船の海難件数を昭和56年に追い越して以来、プレジャーボートの海難は4年続いて上位2位にランクされ、死者は38名に上った。

また、昭和57年以降は救助を要する船舶のかなりの部分をプレジャーボートが占めるようになった。いくら海洋性レクリエーションの増加にともなうもの、といっても、こうした数字の増加は有難くない。

事故の中には、高速走行中の2隻のボートの衝突事故、や海水浴客を含めた死傷事故、漁網や漁業標識の破損など、一部のプレジャーボート運航者のルール無視とマナーの欠除が、あいかわらず関係者から指摘されている。

気象・海象など自然条件も厳しくなる、これからの季節、くれぐれも安全思想の普及を心がけてください。

浜の歳時記

残してほしい漁村の年迎え行事

家ごとに注連飾りをつけ、鏡餅を供える――そうした年迎えの行事が街からドンドン姿を消してゆくようだが、漁船に松飾りをして、元旦の朝の浜で若水ならぬ若潮を汲む、「若潮迎え」や、海水で身を清める「潮斉」など、日本の浦々にあった漁村特有の年迎え行事はどうなっているのだろうか……。

身を切るように冷めたい冬の海にザブザブと踏み込んで、未明の空に拍手を打って、「よろずの宝・われぞ汲みとる」と唱えながら、手桶に海水を汲みとる、家に持ち帰って笹の葉につけて、家の内外を浄める、という宮城雄太郎の「漁村歳時記」にあるような、長崎県五島列島小値賀島の「若潮迎え」。

同じ九州地方で元旦の朝海水や砂や海藻を持ち帰って海水で身を清める、といっても多くの場合は海藻につけた海水を体にふりかける形式をとる「潮斉」などは、優雅な呼び名とともにいつまでも続いてほしい、漁村の年迎え行事だ。

あなたの浜の、特徴ある「年迎え行事」も機会があったら、ひとつ教えてください。

新刊紹介

『つれ釣れなるままに』

高橋 治著
筑摩書房

――日本の釣りはゲームである前に、食と直接つながる文化なのである。私も鯛には、竿を使う。手に優る道具はないと昔の人はいったが確かに真理だろう――。この本には著書が日頃新聞や雑誌に書いてきた、このような、〝釣りと魚に関するエッセイ〟を集めたものを中心に、著者の半生記〝海育ちの記〟や、鹿児島県薩摩半島野間池の〝薩摩ずいべ釣り名人との対談〟などを収めている。

長崎のいずれ劣らぬ一本釣りの名人である、二人の老漁師の腕くらべを書いた、小説〝秘伝〟で直木賞を受けた著者だけに、魚の習性やその味までも変えてしまう撒き餌の怖しさ、釣人のマナーや磯の荒廃、魚の味、料理を知らぬ女性、……などへ鋭く迫ったり、慨嘆したりする。また、千葉竹岡から奄美・徳の島までの釣行の中で、土地土地の名人達とのエピソードなどが楽しくちりばめられている。

定価 980円

▶お問い合わせは、最寄りの書店または、筑摩書房 〒103 東京都中央区神田小川町2-8 ☎03(291)7651

Harbour Radar

●ヤマハインフォメーション

小型で800W！
経済性・耐久性・低騒音を誇る

ヤマハ発電機 EF800S

新発売

1KW以下の発電機はアウトドアライフの楽しみ方をひろげる手軽な小道具として人気があるとともに、便利で取扱いやすいので業務用発電機としても大きな需要があります。

ヤマハでは従来から2サイクルのET800を販売してきましたが、いっそう音が静かで携帯に便利な製品を求める声にこたえて、ヤマハ4サイクルOHVエンジンを搭載して、EF800Sを開発しました。OHVエンジンは燃焼室容積が小さく吸排気効率が良いため、燃焼効率が高く経済性に優れていますが、さらに、徹底した低騒音設計で55ホーン(50Hz／7m)を実現しました。また、50Hz、60Hzどちらの地域でも使える周波数切換えスイッチを装備しています。

その他の特徴

- オイルウォーニング装置を内蔵——オイルが規定量以下になると自動的にエンジンがストップし、エンジン焼付を未然に防止します。
- 大きなタンクで経済的な燃費——満タン3.8ℓで7.5時間(50Hz)使用できる経済的燃費です。

ヤマハ発電機《EF800S》仕様諸元

発電機	周波数 (Hz)	50	60
	定格出力 (KVA)	0.65	0.8
	定格電圧 (V)	単相 100	
	定格電流 (A)	6.5	8
エンジン	エンジン種類	4サイクル OHV 強制空冷ガソリン	
	排気量 cc	84.4	
	連続定格出力ps／r.p.m.	1.6ps／3,000r.p.m.	1.9ps／3,600r.p.m.
過電流保護装置		プロテクター	
周波数メーター		メーター付	
パイロットランプ		出力表示ランプ	
燃料タンク容量 ℓ		3.8ℓ(満タン)	
定格連続運転時間		約7.5時間(満タン)	約5.5時間(満タン)
重量 kg		25.2kg	
寸法(全長×全巾×全高) mm		390×280×388	
騒音レベル(定格)		55dBA／7m	58dBA／7m

新発売

水に浮〜く

水浮きライト

水に浮くフラッシュライト！

防水、軽量、お好みの3色カラーが特長です。海のレジャーに、また防災用に、はばひろく活用していただけます。

- **小売価格** ¥880(電池別売)
- **パーツNo.**

90790-48001……水浮きライト(赤)
90790-48002…… 〃 (ライトグリーン)
90790-48003…… 〃 (黄)

コロンビア災害救援活動に

ヤマハから二輪車、発電機を寄贈

11月27日、東京都品川区にあるコロンビア共和国大使館にて、11月13日のネバドデルルイス山の噴火に伴う災害救援活動としてヤマハ発動機から救援物資の贈呈目録が、ホセ・マリア・ビリャレアール大使に手渡されました。

救援物資の内容はチャッピー50cc／10台、チャッピー80cc／10台、そしてET500W／5台、EF1400W／2台、ET1500W／9台、EFC2800W／4台です。

特に大使は、この発電機に対して、『非常に役に立つ、すばらしい選択の救援物資です』と喜んでいました。

ヤマハ マリンストア ニュース No.49●発行 昭和61年1月1日●発行人 長谷川至●発行所 ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県磐田市新貝2500 ☎0538(32)1111

風流れしにくく、(アンカリングのとき)風に立ちやすい

一本釣専用ヤマハ和船 W-15AH

九州の一本釣り専用和船として、従来のラインナップにない新しい船型を開発しました。空中と水中の側面積比をバランス良くしているので、風流れしにくく、また、アンカリング時に風立ちが良いという性能を発揮します。深いスケグ付き船型のために保針性も良く、波によるローリングが少ないこともセールスポイントです。

- 収納性を向上させた、フロア中央の3連ハッチ。まん中はイケスで、両側は物入れとしました。
- トモ台部はタンクルームとバッテリールームの2ルーム仕様。
- トモ乾舷が高く、追波に強い。
- バウ巻込みガンネルを傾斜させたスマートな外観。

主要諸元

全長		4.48m
全幅		1.50m
全深さ		0.67m
総トン数		0.3トン
船体重量		205kg
最大積載量		350kg
最大保証馬力	マニュアル	15ps
	リモコン	15ps
トランサム	高さ	0.52m
	仕様	L
定員		3名
航行区域		限定沿海
予備検査		オーダー受検

リモコン仕様で高馬力化(40PS)を実現

全国向け汎用和船 W-17AHS

W−14CH、W−19DH(S)につづいて打ち出したヤマハニュー和船シリーズの第3弾です。ステアリングボックスを標準装備し、リモコン仕様でヤマハ船外機40馬力の搭載を可能にしました。
船底Vとバウフレアーを強めて凌波性向上とソフトな走りを狙い、チャイン幅を広くとって横安定を確保しました。また、直線的なシアーラインが前方視界をグンと広げます。

- 継ぎ目のない一体成型デッキ
- トモガンネルをヒップアップ型にしてスタイリング効果と安全性を考慮しました。
- 艤装がしやすいセミダブルスキン構造の船側と逆U型ガンネル。
- フロア中央部のイケスは横2連式にして上面の高さをおさえました。
- 追波に効果を発揮するモーターウェル

■プレジャー対応としてUW-17AHSを同時開発しました。

主要諸元

全長		5.20m
全幅		1.64m
全深さ		0.63m
総トン数		0.4トン
船体重量		280kg(260kg)
最大積載量		530kg
最大保証馬力	マニュアル	(30ps)
	リモコン	40ps
トランサム	高さ	0.50m
	仕様	L
定員		5名
航行区域		限定沿海
予備検査		オーダー受検

( )内はマニュアル仕様、W-17AH